

自律的に学ぶ子供が育つ国語科学習の創造

— 言葉による見方・考え方を働かせ、考えを形成し、共有する単元の構想と展開 —

徳島市南井上小学校教諭 板東 敬子

1 はじめに

本学級の学習者は全体的に素直で、授業中は与えられた課題にまじめに取り組むことができる。しかし、自分の考えを進んで発表し、他者と共有して考えを深めようとする者が少ないように感じられる。考えの共有を通してお互いの読みの違いを楽しみ、作者の意図や作品のテーマなどを考えながら読むおもしろさを体験させたいと考えて、本実践研究に取り組んだ。

2 研究の方向

- (1) 必然性のある共有の場を設け、視点を明確化することで、各自の読みを広げたり深めたりする。
- (2) 学習者がスムーズに考えを形成し共有するために、手引きを充実させる。
- (3) 「学習の記録」を効果的に活用する。
- (4) モデル学習で習得した力を活用の中で使うことを螺旋的に繰り返し、学習者が自律的に学ぶことができるようにする。
- (5) 学習者が言葉に着目し、比較したり関連付けたりするなど言葉を吟味することにより、自らの考えを深めることができるような単元学習を展開する。

3 研究の実際

- (1) 「伝えよう 重松清ワールド」(「カレーライス」光村図書 5年)の実践

- ① 指導にあたって

- ② 学習指導の実際(全11時間)

ア 事前・・・重松清作品を読む。読書ボードを掲示し、関心を高める。

イ 第一次・・・学習計画を立てる。(1時間)

ウ 第二次・・・重松清作品を読み、読書ボードを作るための読書会を開く。(7時間)

※3つの視点から繰り返し読む。「カレーライス」(モデル学習)と「自分が選んだ作品」(活用場)を往復しながら読み進める。

エ 第三次・・・下書きをもとに、読書ボードに仕上げる。(2時間)

オ 第四次・・・読書ボード展覧会を開き、おおまかな作家像を捉える。(1時間)

4 おわりに

本単元学習前は、物語を表面的に読み満足している学習者が多かったが、読書ボード作りを通して、自ら情景描写や象徴的な表現を見つけ、かくれた裏の意味を考えながら読もうとする学習者が増えてきた。視点を明確にして物語全文を繰り返し何度も読み、共有を通して、自己の読みを広げたり深めたりし、作者の意図や作品のテーマなどを考えながら読むことを楽しめた。

今後は、話し合い活動をより活性化するための手引きの研究に取り組んでいきたい。